資料３

今後の進め方

１．今年度のスケジュール（案）

年月	市民部会の取り組み	実施主体の動き
平成 29 年 7 月 20 日	第 2 回市民部会 ・取り組み内容の決定、検討事項の洗い出し	
8 月	第 3 回市民部会 ・検討事項の情報共有、役割分担の調整	（昨年度実績より）
9 月	実行委員会へのオブザーバー参加 →	実行委員会 ・委員長、副委員長の選出 ・概要説明（各所、各コーナーの役割分担等の確認）、意見交換
10 月	第 1 回協議会 ・取り組み内容の報告	
10 月	実行委員会へのオブザーバー参加 →	実行委員会 ・レイアウト確認 ・PR について ・当日流れ及び作業確認
11 月	イベントの開催	
12 月	第 4 回市民部会 → ・イベントの振り返り、アンケート結果報告 ・来年度の取り組みの検討	（フィードバック）

２．平成 30 年度以降の進め方

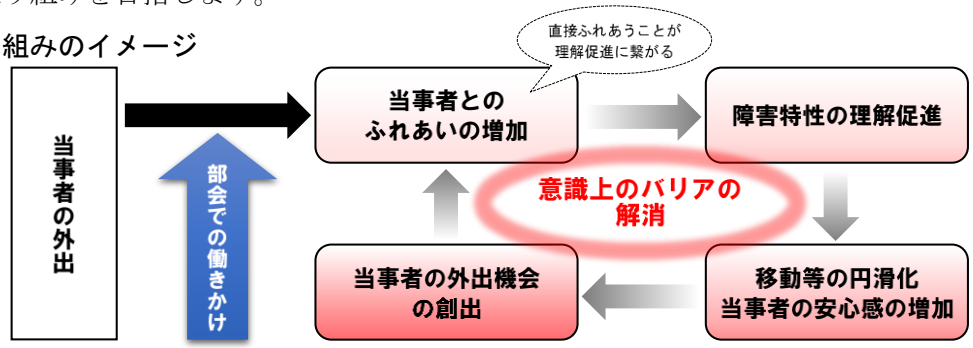
＜市民部会の目標＞　※平成 29 年度第 1 回市民部会 配布資料　再掲

市民部会では、だれもが「出かけられる」、または「出かけたい」と思える社会の実現を目指し、高齢者、障害者等の「移動」や「施設利用」に係る意識上のバリアを取り除くための取り組みを行います。

具体的には、市民部会が主体となって、市民や事業者等の根底にある意識に働きかけるような普及啓発を実践することによって、高齢者、障害者等のさまざまな特性や特徴に関する“理解”を促進するとともに、“気づき”や“行動”につなげていくことを目的とします。

活動の実践にあたっては、必要に応じて関係部局や様々な団体と協力・連携するなど、広がりのある効果的な取り組みを目指します。

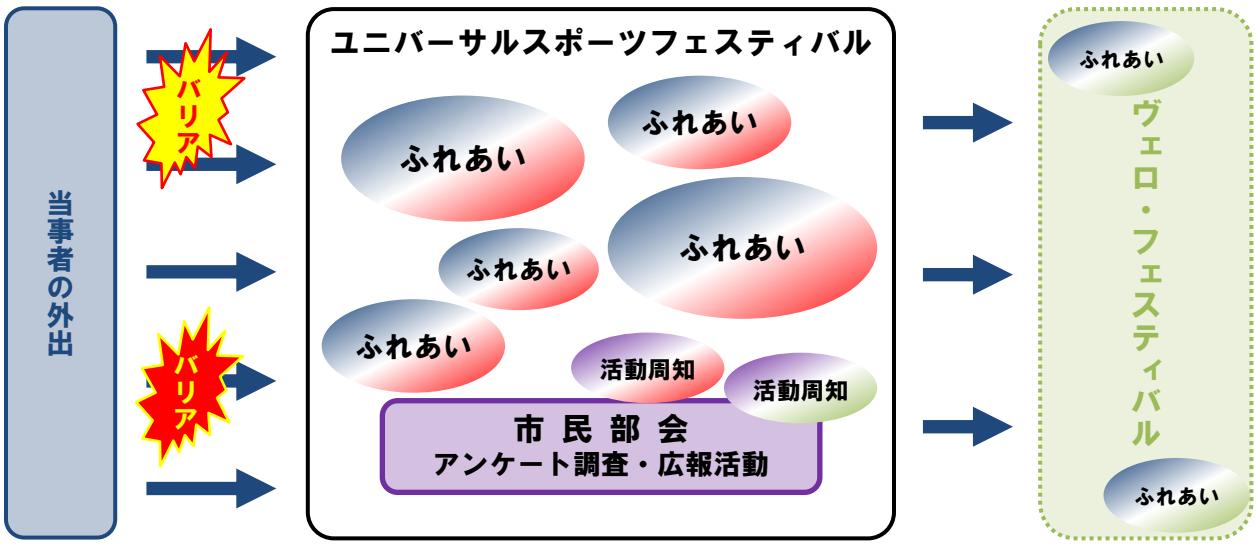
取り組みのイメージ



平成 29 年度は、茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルとの連携を図り、**市民部会の目標を達成するための基礎データ収集を目的**として、アンケート調査を行います。平成 29 年度の茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルは、ちがさきヴェロ・フェスティバル（開催場所：中央公園）と同日開催となることから、ヴェロ・フェスティバル会場でのふれあいの創出も期待できます。

今後は、平成 29 年度に実施するアンケート調査の結果を基に、市内の様々な集客能力の高いイベント等と連携し、効率的な取り組みを展開が考えられます。

平成 29 年度の取り組みのイメージ

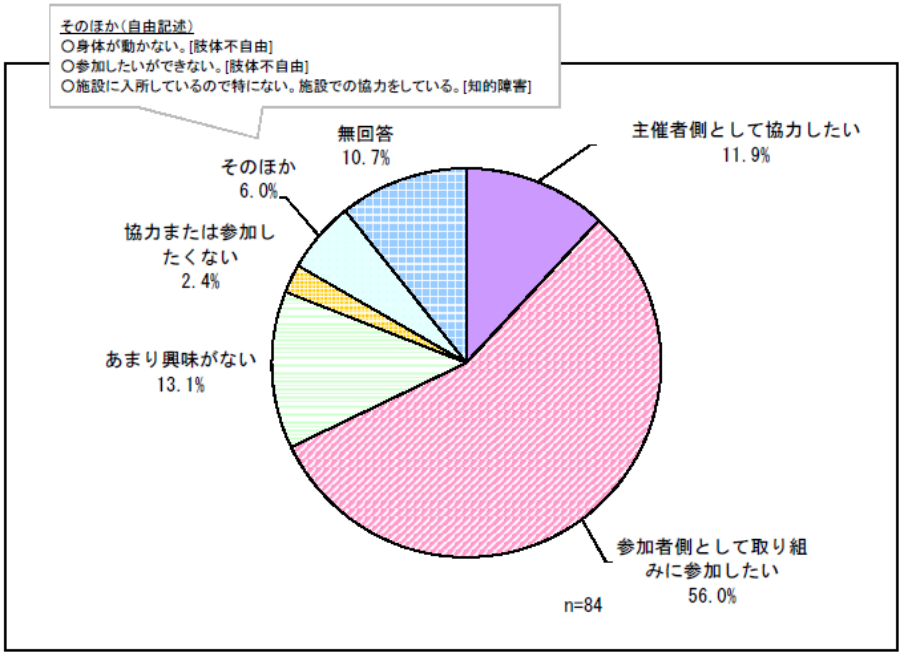


3．茅ヶ崎市内で開催されている集客力の高いイベント

名　称	場　所	集客数(H28)	時　期	備　考
湘　南　祭	サザンビーチちがさき周辺	94,000 人	4 月下旬	・ステージイベント ・飲食、物販 ・ビーチサッカー ・パドルレース　等
アロハマーケット	西浜駐車場跡地	42,000 人	4 月下旬	・ステージイベント ・飲食、物販 ・ワークショップ　等
大 岡 越 前 祭	茅ヶ崎駅周辺、浄見寺周辺	37,000 人	4 月下旬	・ビッグパレード ・飲食、物販 ・吹奏楽　等
浜　降　祭	茅ヶ崎西浜海岸	73,500 人	7 月中旬	
花　火　大　会	サザンビーチちがさき	85,000 人	8 月上旬	
ちがさきヴェロフェスティバル	茅ヶ崎中央公園	18,000 人	11 月中旬	・ステージイベント ・クリテリウム ・飲食、物販　等

前述のイベントは、茅ヶ崎市内で開催されている集客力の高いイベントであり、平成 29 年度のアンケート調査を受けて、当事者が「行きたい」と考えているものを洗い出すと同時に、外出の際のバリアを把握することで、平成 30 年度以降の取り組みへと反映させます。

また、平成 28 年度に実施した当事者アンケートにおいて、「今後、茅ヶ崎市で心のバリアフリーを進めるための取り組みを展開する場合、あなたは参加したいと思いますか。」という問いに対し、「主催者側として協力したい」が 11.9%、「参加者側として取り組みに参加したい」が 56.0%と、我々の活動に賛同する方は多くいると考えられます。



平成 28 年度 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会市民部会アンケート調査

そこで、平成 30 年度以降の取り組みとしては、平成 29 年度に実施するアンケート結果次第では、以下のようなものが考えられますが、具体的な内容については、今後市民部会で検討するものとします。

＜取り組み（案）＞

平成 29 年度アンケート結果（想定）	取り組み内容
イベントへの外出意欲が高い	既存のイベントに市民部会スペースを設け、市民部会の活動へ協力者を募ることで、イベント内での当事者の居場所を作り、参加者と一緒になってイベントを楽しみ、当事者への気付きを醸成する。
外出の際の移動手段が乏しい	コミュニティバスや路線バス、福祉有償運送等の移動手段について、利用案内の周知や利用方法の体験など、公共交通手段の活用について啓発し、外出機会の創出を図る。
茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルでの意識変化が高い	引き続き、茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルとの連携を検討し、課題解決やより効果的な取り組みを行うことで、当事者に対する気付きを醸成する。